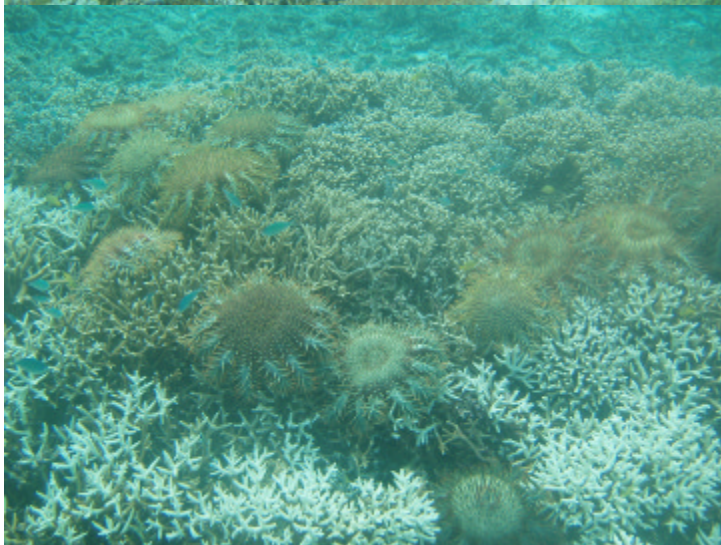




八重干瀬ウル西：水深-1 - -3 m でみられた非常に多くの大型のオニヒトデ。水深-1m の礁原における造礁サンゴ類（ミドリシ類）の被度は70%前後-画面左。



八重干瀬ウル西：水深-1 - -3 m の礁原でみられた非常に多くの大型のオニヒトデ。



八重干瀬ウル西：水深-3 - -7 m における造礁サンゴ類はオニヒトデにより被食され概ね死亡した-画面左。水深-9m の砂底となる手前の水深-7 - -9m の礁斜面における造礁サンゴ類は被度 60%前後で生存している-画面右。



八重干瀬カナマラマイビジ東：昨年の調査において被度 70%以上を記録し、良好な造礁サンゴ類の分布が確認された、水深-1 - -9 m の礁斜面ではオニヒトデによる捕食を受け造礁サンゴ類の分布は激減し、現在では被度 20%に満たないものと推察された。



来間島大橋南：水深-3 - -5 m の礁斜面で見られた比較的多くの大型のオニヒトデ。オニヒトデによる捕食を受け数多くの食痕が確認された。



来間島大橋南：水深-3 - -5 m の礁斜面で見られた比較的多くの大型のオニヒトデ。